

ウパシタ[®]を 使用される 患者さんへ

監修：藤田医科大学ばんだね病院医学部内科学講座 主任教授 稲熊 大城先生

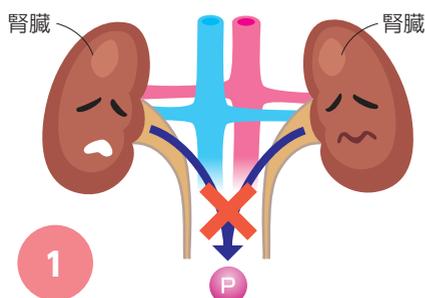
ウパシタ[®]は透析患者さんの、
「二次性副甲状腺機能亢進症(SHPT)」
の治療に使うお薬です。



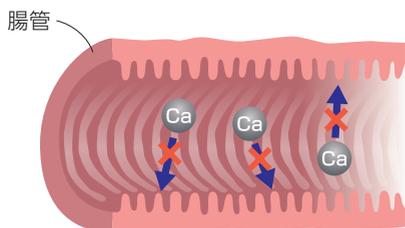
二次性副甲状腺機能亢進症 (SHPT)とは

SHPT: Secondary hyperparathyroidism

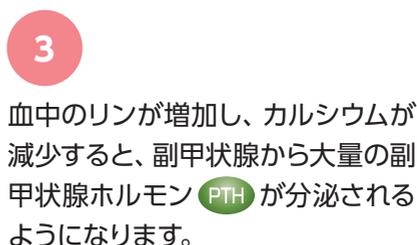
二次性副甲状腺機能亢進症は、腎臓の働きの低下が原因で、副甲状腺からのホルモン (PTH) の分泌が過剰になり、血液中のカルシウムやリンの濃度のバランスが乱れ、骨折や心臓病などさまざまな病気を招きます。



腎機能が低下すると、尿からのリン (P) 排泄が減少し、血中のリン濃度が上昇します。



また、腎機能の低下はビタミンD活性化を低下させるため、腸管からのカルシウム (Ca) 吸収が低下し、血中のカルシウム濃度が減少します。



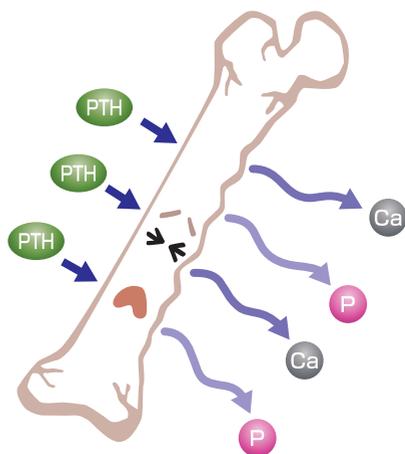
血中のリンが増加し、カルシウムが減少すると、副甲状腺から大量の副甲状腺ホルモン (PTH) が分泌されるようになります。

P ↑ Ca ↓

P ↑ Ca ↓ PTH ↑

4

副甲状腺からの大量の副甲状腺ホルモン PTH 分泌が長く続くと、骨からリンやカルシウムが溶け出し、骨が脆くなり、骨折など骨の病気をきたしやすくなります。



心臓病



脳卒中

5

また、過剰になったカルシウムならびにリンが血管に沈着することで、血管が硬くなり、心臓病や脳卒中の原因となります。これを「血管石灰化(けっかんせっかいか)」といいます。

P ↑ Ca ↑ PTH ↑

SHPTの 治療について

二次性副甲状腺機能亢進症の治療では、副甲状腺ホルモン^{PTH} やリン、カルシウムのコントロールが重要です。下記の目標値範囲内にコントロールした場合、死亡リスクが低くなることが報告されています。

Intact PTH
の管理目標値

60 ~ 240
pg/mL

血清リン濃度
の目標値

3.5 ~ 6.0
mg/dL

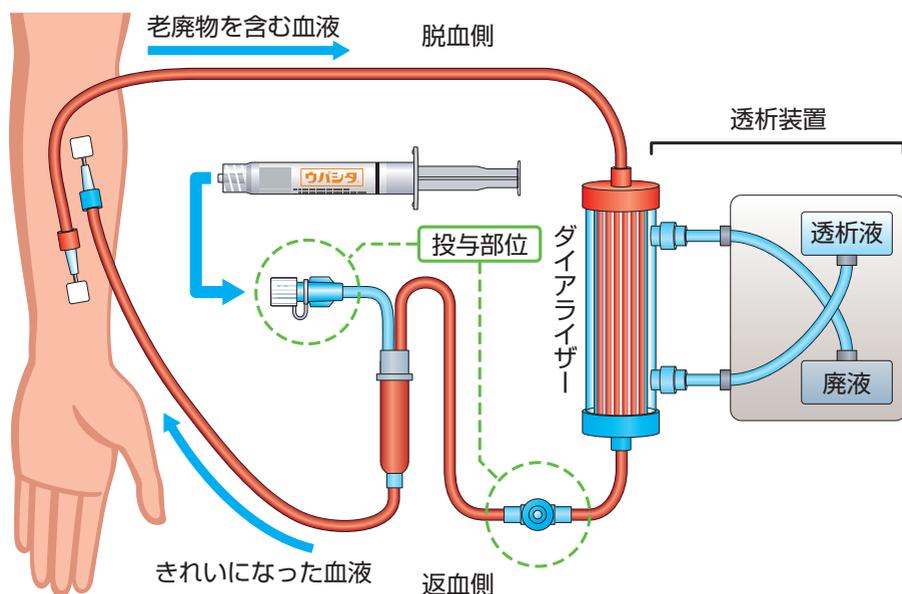
血清補正カルシウム濃度
の目標値

8.4 ~ 10.0
mg/dL

ウパシタ®の働きと 投与について

ウパシタ®は副甲状腺に働いて副甲状腺ホルモン(PTH)の分泌を減らします。副甲状腺ホルモンの分泌が減ると、骨からのリンやカルシウムの溶け出しが抑えられることが期待できます。

ウパシタ®は、血液透析の終了時に、医療従事者により、透析回路の返血側から投与されます。



ウパシタ[®]を使う前に 確認すること

他の病気の治療のため、
下記のお薬を使っている方は、必ず主治医に伝えてください。
血液中のカルシウム濃度が低くなりすぎる可能性があります。

[骨粗鬆症]

治療薬

デノスマブ

ビスホスホネート系薬剤

選択的エストロゲン
受容体モジュレーター

カルシトニン

[アレルギー性疾患]

[自己免疫疾患]

[血液疾患]

等に伴う炎症の治療薬

副腎皮質ホルモン

妊婦または妊娠している可能性のある方は、必ず主治医に相談してください。
ウパシタ[®] 投与中およびウパシタ[®] 最終投与後に次の透析を実施した日の翌
日までは授乳を避けてください。

ウパシタ®使用中に 注意すること

ウパシタ®は血液中のカルシウムを低下させる作用があるため、投与後は下記の症状に注意してください。また、その他にも、いつもと違う症状が出た場合は、すみやかに主治医に連絡してください。



手足や身体がしびれる。
けいれんする。



気分がすぐれない。



脈が乱れる(不整脈)

目の前に何かが飛んでいる
ように見える。目がかすむ。
視界の一部が欠ける。
(水晶体混濁)



血圧が下がる

他の医療機関を受診する際は、ウパシタ®を投与中であることを、必ず、医師、看護師、または薬剤師にお伝えください。

製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先)
株式会社 三和化学研究所
名古屋市東区東外郷町35番地 下461-8631
●ウェブサイト <https://www.sk-net.com/>

プロモーション提携
 **キッセイ薬品工業株式会社**
松本市芳野19番48号

文献請求先および問い合わせ先
(文献請求先) くすり相談センター
東京都文京区小石川3丁目1番3号 TEL 0120-007-622
(販売情報提供活動問い合わせ先) 0120-115-737